

[解説]

情報システム学の理念

伊藤 重隆

情報システム学については、昨年2月に新情報システム学体系調査研究委員会より、タイトル：「新情報システム学序説」とし、情報システム学の概要について述べた書籍が出版されました。情報システム学の領域は広く、また深いので今後も継続して調査・研究する予定となっています。ここでは情報システム学についての根本の考え方について、「情報システム学の理念」として述べたいと思います。

「理念」という言葉ですが、岩波書店国語辞典によれば、「ものの原型として考えられる、不変の完全な存在。イデー。イデア。」と説明されており、小学館新選国語辞典によると、「何を最高のものとするかについての、そのものに関する根本的な考え方、次に哲学用語として、「理性によって得られる最高の概念。純粹理性の概念。イデア。」と記述されています。

ここでは、小学館新選国語辞典に記述されている「・・・そのものに関する根本的な考え方」に沿って述べます。

情報システム学は、学会の理念に述べているように、人間中心の情報社会を実現する学問体系を指します。その学問体系としての理念は、以下のようなと考えます。

1. 情報システムに関する基礎概念、理論、実践（応用）分野と関連分野を網羅する体系的な学問とする。具体的には科学と工学を

包摂する学問領域とする。また、情報システム産業発展を担い情報社会の基礎となる学問分野とする。

学問として既に確立されている分野においては、当該分野の基礎概念に基づき理論研究が実施され、この基本的成果を実用分野に適用することが通常であり、情報システム学も同様と考える。

2. 情報社会を構成する情報（生命、社会、機械）、情報システムについて人間の情報活動を意識した研究を行い、人間が社会で快適に生活できる環境作りに資する。

人間の誕生以来、情報は人間活動に取り必須であり、社会の進展により社会が複雑化することに伴い、情報を有効に安全に利用するための情報システムを組織的に組成することが求められている。持続的社会の維持のためにも、この実現のために体系立った学問領域を確立、研究し、社会へ貢献することが求められている。

3. 情報システムはコンピュータ・システムとは異なることを明示し、社会、組織体、個人が情報システム自体であることを認識した研究を行う。同時に情報技術の進展に沿い、また、情報技術の進展を促す社会にとり最適な情報システム構築し運用する研究を行ない、成果発表する。

4. 社会の進展に、益々、重要性を増している情報システムの利用、活用について、人間

Shigetaka Ito

情報システム学会 会長

[解説] 2015年3月18日受付

© 情報システム学会

にとり日常必要となる情報行動の基本となる情報、情報システムについて能力開発をするための教育体系を、情報システム学の一環として位置づけ研究、発表し、社会へ貢献する。

5. 現在、直面している情報社会では情報技術の進展もあり個人、組織の情報行動が社会へ大きな影響を与えることとなる。社会の中で求められる個人、組織の情報行動に求められる規範について、倫理、実践面から研究し体系化する。

「理念」について基本的な点について述べました。「情報システム学」の確立は途上にあります。が、「理念」を具体的な人間行動と関連づけて研究し概念抽出することが、重要な出発点となります。「情報システム学」は、今後の社会の発展に取り必要な学問分野であると考え、その確立に向けた研究が、現在、期待されていると考えます。

参考文献

新情報システム学体系調査研究委員会 編、『新情報システム学序説 一人間中心の情報システムを目指して』、情報システム学会（2014）